

令和6年度総合教育会議懇談会の結果について

資料1

1 懇談会の開催の趣旨

総合教育会議懇談会は、市長と教育委員会が教育行政のあるべき姿を議論するにあたり、現場の声に耳を傾け、そこで把握したことを次年度以降の取組に活かすことを目的として開催しています。

懇談会は、平成28年度から実施しており、三重県教職員組合津支部役員、津市PTA連合会本部役員、津市小中学校長会役員、津市立幼稚園長会役員の皆様との懇談の場を設けました。

今年度は、「令和6年度教育施策の取組について」をテーマとし、社会が大きく変化していく中で、各団体役員の声を直接お聴きし、教育現場において取り組んでいく必要がある令和6年度教育施策について自由に意見交換を行いました。また、これまでの取組をどう展開させていけばよいか等について、御意見等をお聴きしました。

2 開催日時

令和6年8月2日（金）	17：15～18：15	三重県教職員組合津支部役員
	18：30～19：30	津市PTA連合会本部役員
令和6年8月7日（水）	16：00～17：00	津市小中学校長会役員
	17：15～18：15	津市立幼稚園長会役員

3 懇談会での意見

三重県教職員組合津支部（8/2開催）	津市PTA連合会本部（8/2開催）	津市小中学校長会（8/7開催）	津市立幼稚園長会（8/7開催）
・GIGAスクール構想において、タブレット端末の整備により子どもの学習の幅が広がったので、今後も充実するように引き続きお願いしたい。また、回線整備の強化も同様をお願いしたい。 ・教員支援員、スクール・サポート・スタッフ、特別支援教育支援員について、各学校へ適正な配置を今後もお願いしたい。また、子どもと向き合う時間を確保するためにもスクール・サポート・スタッフの全校配置についても継続して配置するようにお願いしたい。 ・各学校における施設修繕については、滞りのないように施工をしていただきたい。 ・プール授業については、水泳指導の民間委託を推進していただきたい。 ・「架け橋プログラム」については、幼稚園の先生や、市教委の先生との強い繋がりができたり、お互いの取組が視覚化できたりと、子どもたちの小学校での学びにどう繋がっていくのかが具体的にみえてきたので、今後もしっかりと続けていきたい。 ・教職員定数を特別支援学級の児童を含めてた新しい基準としていただきたい。 ・8月の校務休止日の期間内において、行事を入れないでいただきたい。	・学校によっては外国につながる子どもが7割をこえる学校もあるなかで、いろいろな活動をするのに「言葉」が障壁となっている。遅い時間帯での活動においても通訳を派遣できるようにしていただきたい。 ・不登校の子どもが増えているので、その子どものケアが重要なので、不登校の子どもへのケアを大切にすることをお願いしたい。 ・熱中症リスクをさけるためにも、体育館への冷暖房設備の整備をお願いしたい。 ・子どもたちに実体験ができるような学習を続けられるように地域との協力が得られるようにお願いしたい。 ・学校における施設整備については、計画的に継続していただきたい。 ・部活動の外部指導員については、外部指導員の情報が地域と学校との間で共有できていないので、外部指導員の情報を一元化する仕組みづくりをお願いしたい。また、外部指導員の「質」についてもしっかりと見ていていただきたい。 ・特別支援学級のコーディネーターの不足により、一般教員がそちらにとられているので、十分な配置をお願いしたい。 ・「こども計画」等に関わる部分において、当事者として子どもたちの意見が表明できたり、会議に出席できるようにしていただきたい。	・部活動について、小規模学校では人数が少ないので部活動がなくなってきた。地域において部活動ができる環境と、生徒の移動手段があれば、部活動の地域移行が加速すると考えている。 ・学校における「授業改善」について、教員が意欲的になれるための「ゆとり」を提供するためにも、いろいろな職種、働き方の情報共有、心の通い合いなどができるような学校づくりに努めていきたい。 ・「架け橋プログラム」について、幼稚園の子どもが興味を持って没頭して取り組める気持ちが、小学校・中学校と繋がれば、探究的な学習に繋がっていくと考えられるので、今後もしっかりと続けていただきたい。 ・人的支援について、いろいろな人的支援を各学校に配置していただいている。子どもの積極的な学びを伸ばすためにも、子どもたちをきちんと把握するためにも、今後も各学校にあった適切な人員配置をしていただきたい。また、そのために学校側においても人材探しに協力をしていきたい。 ・学校整備について、基金を活用するなどをして、子どもの教育環境を整備し続けていただきたい。	・一人一人を大切にした教育について、心も体も動くような遊びを経験する中で、非認知能力を育成し、小学校以降の学びに繋げて、誰もが尊重され一人一人のペースで学びを迎えられるようにしていきたい。 ・多様化する教育的ニーズに応じた教育について、外国につながる子どもが増えている中で、子どもが自然と多様性の環境の中に入っていくようにしていきたい。また、新たに3歳児保育を実施する園が増えることにより、保護者の選択肢が増えることで保護者のニーズに応えていきたい。 ・保護者支援について、外国につながる親子、家庭環境が複雑な親子など多様な親子を守るため、公立幼稚園が受け皿として存在し、地域や様々な機関と連携しながら、教育の保障と丁寧な保護者支援に努めていきたい。 ・「架け橋プログラム」に基づいた取組について、教育内容を言語化して保幼小をつなげる役割があり、培った保育実践や幼児理解などの学んだことを生かし、私立幼稚園に対しても積極的に声をかけ、子どもの姿を楽しく語り合い、幼児教育で大切にしていることを共有していきたい。 ・タブレットの活用について、小規模園の園内研修や会議などにおいて複数園をネットでつなぎ、会議や研修を実施したり、保護者等に向けた幼児教育を理解してもらうためのツールとして、さまざまな活動や保育現場に活用していきたい。 ・人材育成について、小規模園の増加や職員の多様化という現状の中で、新しい研修の場として、小規模園同士で実際の保育を見て学び合うなどで、若い先生が気軽に保育を見せ合うといった機会を増やす等の工夫していきたい。